

昭和62年(1987年) 5月26日(火曜日)

この夏には韓国側でもボーリングが始まると発表された「日韓トンネル研究会」の総会(25日、東京・新宿の京王プラザホテルで)



韓国側も今夏ボーリング開始

日韓トンネル研総会開く

日本と韓国を海底トンネルと橋りょうで結ぶ計画の調査、研究を進めている「日韓トンネル研究会」(会長・佐々保雄北大名誉教授)は二十五日、第五回総会と六十一年度研究調査結果の報告会を、東京・新宿の京王プラザホテルで約五百人の関係者を集めて開いた。席上あいさつに立った佐々会長は「一、二年内にトンネルの正式なルートが決定され、具体的なトンネルの掘削が始まる」と語った。

また、昨年十月に発足した韓国の「国際ハイウェイ研究会」(会長・尹世元リユニ・セオン(成和神学校校長)から鄭昌熙

ソウル大名譽教授が参加、韓国でも早ければ今夏から陸上部のボーリング、海城部の音波探査が行われると発表し、注目を集めた。これにより、同計画は日韓両国から推進されることになって国際的な段階へと進み、その実現に向かってさらに前進することになった。

総会では佐々会長が、「全体の基本的調査は終わった。あと一、二年のうちにルートを決め、掘削に直接必要な調査を始める。現在調査斜坑を二百メートルの深さまで掘り、技術のチェックは終わった。近い将来には対馬と喜岐から具体的にトンネル

を掘り始める」と語った。同研究会は日本から韓半島、そして中国を通じて欧州に至るハイウェイで世界各国をつなぐ、全世界を一日生活圏にすることによって人類平和を実現しようとする「国際ハイウェイ構想」の一環として設けられた。同ハイウェイ構想は一九八一年十一月、ソウルで開かれた第十回科学の統一に関する国際会議(ICSU)の席上、国際文化財団の創設者である文鮮明師によって提唱されたもので、同研究会が八三年に設立して以来、専門家や技術者、学者など約千人の会員を持つに至っている。

このほか総会では、清水肇八郎千葉大学名誉教授が、「国際

佐賀県西町では昨年十月から、調査斜坑の掘削工事が始まっている。国際ハイウェイ構想には、とくに中国が建設の依頼を寄せるなど大きな関心を示している。

この計画の基本理念などを研究する第一部会では、「アジアハイウェイ計画の社会経済効果・第二次案」と題して、河野博忠筑波大学教授が、アジアハイウェイ計画を進める際の課題、計画が実現した時に地域に与える利益などを、具体的なデータを

ハイウェイ・日韓トンネルの理念と研究」と題して記念講演を行った。その中で同教授は「大事業を遂行するためには何のため、だれのため、いかにして行うかという崇高な理想と使命感をまことした明解な理念が必要である」として、①国々の交流を高め世界の東西問題、南北問題を道によって解決する②地球規模のニューデールで不況を克服③東洋文明と西欧文明の融合一体化などの理念の必要性を強調した。

また、江口一雄代議士、評論家の細川隆一郎氏らが来賓としてあいさつした。